

## ～世界リーディング・ユニバーシティに向けて～

東北大学は、1907年（明治40年）の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。また、研究の成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献してきました。その歴史は、東北大学に関わる人々のたゆまぬ挑戦を通して築き上げられてきたものです。



いま、人類社会は地球規模で克服すべき様々な複雑かつ困難な課題に直面しています。東北大学は100年という歴史の中で継承してきた知の蓄積と、絶えざる研究・教育の創造を通して、前途に横たわる諸課題に堂々と立ち向かう先導力となり、人類社会の発展に貢献する「世界リーディング・ユニバーシティ」になる決意をしています。

こうした決意をもってこれからの東北大学について考えると、「Challenge（挑戦）」、「Creation（創造）」、「Innovation（革新）」という3つのキーワードを基軸に行動することが重要と考えます。そして核となるのは、これからの人類社会の形成に向けた卓越性の追求をもって取り組む「挑戦」の精神です。

東北大学は「知の継承体」として、不撓不屈な挑戦の精神を持つ人材を数多く輩出し、更には国際社会で指導的な役割を果たす人材を各方面に送り出すことによって、人類社会に対する貢献を果たしてまいります。

また、東北大学は「知の創造体」として、挑戦の精神をエネルギーに世界最高水準の知を「創造」し、その知を実際に活用することによって、人類社会に対する貢献を果たしてまいります。特に、人類社会の重要課題である地球環境問題、エネルギー問題、食糧問題、生命・福祉問題などを解決する「革新」を求めて、横断的学際化（Transdiscipline）を重視した融合領域分野における研究に挑戦してまいります。

そして、東北大学は内外に開かれた「知の経営体」として、目標達成のための戦略を立て、学内外の様々な英知を結集して努力していくことにより、本学が培った実力を如何なく発揮し、世界最高水準の研究中心大学として輝かしい前途を切り拓いてまいります。

このような「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指した戦略実行プランとして、東北大学は2007年3月に「井上プラン2007」を策定し、教育、研究、社会貢献、キャンパス環境、組織・経営という5つの柱ごとにアクションプランをとりまとめました。

その公表から3年。この間のプランへの取組により本学は着実に進化を果たしています。一例を挙げると、教育面においては、海外インターンシップ制度の拡充を含めて、新たな教養教育カリキュラムの構築や実施体制の強化が進んでいます。国際化拠点整備事業（グローバル30）に採択され、このプログラムを契機に、本学の留学生を10年間で約1300人から3000人へ倍増し、講義をすべて英語で行う16の教育コースを準備しています。

研究面においては、卓越した知識と創造的総合知を備えた、21世紀の学術をリードする研究者を育成する「国際高等研究教育機構」を創設しました。また、世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラムに採択され、「原子分子材料科学高等研究機構」を発足させました。グローバルCOEの12件の採択に加え、最先端研究開発支援プログラムに2件の課題が採択されました。

さらに、APRU、T.I.M.E.、AEARUへの加盟を通じた国際的プレゼンスの向上、産学連携事業等を通じた新実業創出の先導、世界に開かれた国際水準キャンパスの整備、国際競争力を支える人事システムの構築、東北大学基金の創設、欧州大学協会による外部評価の実施など、オリジナリティに溢れた取組を進めています。このような取組は、本学ならではのことであり、本学の教職員、学生、そして同窓生の想いと行動がまとまって発揮されていることの表れと自負しています。

“2010年” — 研究・教育の拠点である大学も、空前のスケールで激変を続ける世界の潮流の中でその存在意義を問われています。社会から研究・教育の拠点として人類社会への貢献を委託されている東北大学は、「研究第一」の神髄を発揮して、堅忍不拔な努力と真摯な研鑽によって絶えず新たな研究・教育を創造し、社会の公器として自身の変革を更に加速していかなければなりません。

これからの東北大学が果たすべき使命、行うべき行動を皆様にご理解いただくとともに、多くの方々と共に挑戦していくことにより、社会から信頼、尊敬、そして愛情を受けられる大学として人類社会の発展に貢献して参る所存です。

2010年6月

東北大学総長 井上 明久